

















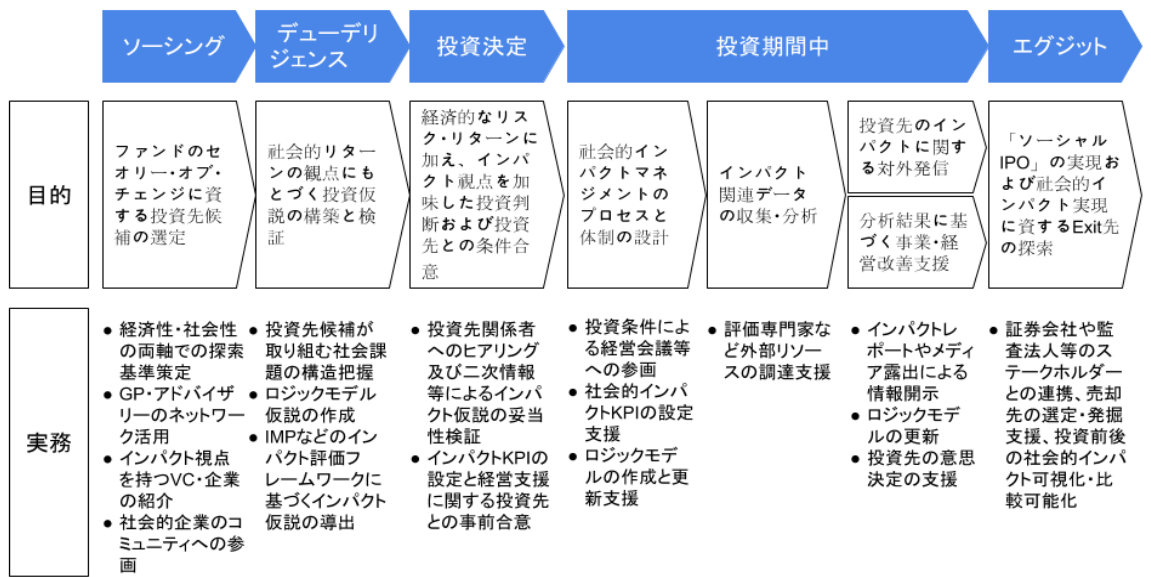








## 投資プロセスにおける社会的インパクトマネジメントの実施ステップ



本ファンドが活用している主要な社会的インパクト評価ツール・手法としては、以下2点があげられる。

### (1) ロジックモデル：

社会的インパクト評価イニシアチブ（Social Impact Management Initiative。以下、SIMI<sup>3</sup>）によると、ロジックモデルとは「(プログラムのための) 利用可能な資源、計画している活動、達成したいと期待する変化や成果の関わりについての考えを体系的に図式化するもの」とされている。

本ファンドでは、投資先が目指すインパクトと投資先の事業活動の因果関係を体系的に把握し、インパクトの観点から意思決定とモニタリングおよび経営支援を行うため、ロジックモデルを活用している。

### ・「インパクトの5ディメンション」フレームワーク：

事業のインパクトを多面的に把握するため、Impact Management Project（以下、IMP<sup>4</sup>）が策定している事業評価の枠組み。具体的には、インパクトの「5つの次元」として、投資先の事業が①どのようなインパクトを（What）、②どの受益者に対して（Who）、③どの程度の深さ・広さ・時間的長さ（How Much）でもたらすか、④投資先はそのインパクトにどの程度貢献するか（Contribution）、⑤想定するインパクトからどう乖離するリスクがあるか（Risk）を定量的・定性的に把握する。

本ファンドでは、投資先事業のインパクトを仮説検証するため、投資先候補の絞り込みからエグジットにいたるまでの全投資プロセスで利用している。

<sup>3</sup> SIMI は、日本国内における社会的インパクト・マネジメントの普及・啓発を目指す取り組み。ロジックモデル作成に関しても具体的なノウハウを集約し一般公開している。

<sup>4</sup> IMP は、社会的インパクトの評価、マネジメント、報告に関する国際原則の策定を進める取り組み。世界2000以上の団体が参加しグローバルにおける標準化を進めている。

【5 デイメンションフレームワークの概念図】

The IMP reached global consensus that impact can be measured across five dimensions: What, Who, How Much, Contribution and Risk

Impact dimension	Impact questions each dimension seeks to answer
What	<ul style="list-style-type: none"> <li>What outcome occurs in the period?</li> <li>How important is the outcomes to the people (or planet) experiencing them?</li> </ul>
Who	<ul style="list-style-type: none"> <li>Who experiences the outcome?</li> <li>How underserved are the affected stakeholders in relation to the outcome?</li> </ul>
How Much	<ul style="list-style-type: none"> <li>How much of the outcome occurs - across scale, depth and duration?</li> </ul>
Contribution	<ul style="list-style-type: none"> <li>Would this change likely have happened anyway?</li> </ul>
Risk	<ul style="list-style-type: none"> <li>What is the risk to people and planet that impact does not occur as expected?</li> </ul>

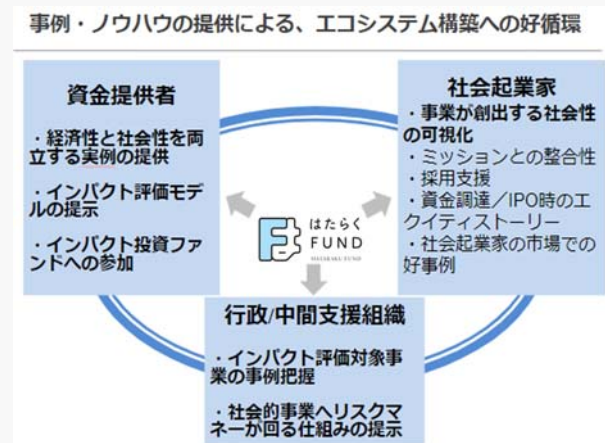
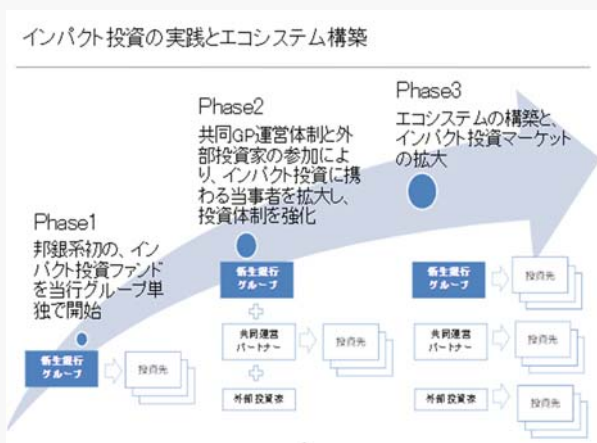
(4)本ファンドの ToC 実現のための社会的インパクト・マネジメントのプロセス

本ファンドは、ファンド活動を通じた課題解決への貢献について、以下のステップによりモニタリングを行う。

- ToC の策定： ファンド ToC を、SDGs への貢献の視点も加味し策定・更新
- 社会課題の構造分析：ファンドが取り組む社会課題の構造を分析し、取り組むべき領域を抽出
- 投資実行： 社会課題の本質的解決に資する投資先を選定し、経営支援とモニタリングを実行

(5)インパクト投資エコシステムの構築

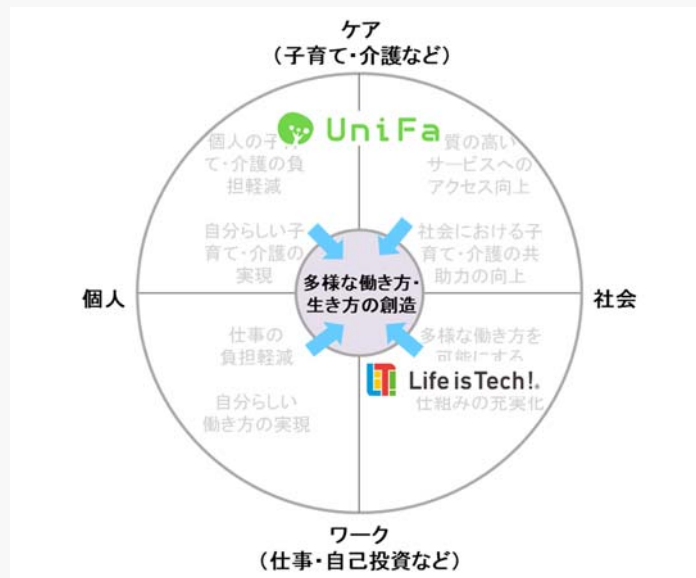
本ファンドは、投資先・投資家・投資先事業を推進する上での取引先・専門家や行政機関など多様なステークホルダーに積極的にアプローチし、対話と情報提供を行うことにより、日本におけるインパクト投資エコシステム構築に貢献することを目指している。



## 6. 本ファンドにおける社会的インパクト評価・マネジメントの進捗

### (1)本ファンドの ToC の実現に向けた進捗（詳細は 7. 投資先紹介を参照）

本年度において本ファンドは 2 社に出資し、社会的インパクト・マネジメント等の非財務支援も行った。ライフイズテック社は、ICT スキル及び非認知能力を有する次世代人材育成を通じ、IT 技術を有する人材の養成にとどまらず「多様な働き方を可能にする文化の醸成、仕組みの充実化」の創出に貢献し得る。ユニファ社は、保育士と保育施設の負担を軽減し、保育の質を高める ICT ソリューションの提供を通じ、働く親の「子育ての負担軽減」と「質の高い子育てサービスへのアクセス向上」の創出に貢献し得る。



### (2)インパクト投資のエコシステム構築への貢献に向けた進捗

2019 年度において、本ファンドは、日本におけるインパクト投資のエコシステム構築への貢献に向けて、以下の活動を行った。

#### ・国内外における社会的インパクト評価・マネジメントの共通原則・ツール作りへの参画：

社会的インパクトの評価、マネジメント、報告に関する国際原則の策定を進める「Impact Management Project (IMP)」の Advisory Group に、本ファンドの GP アドバイザーである、みずほ銀行が日本の金融機関として初めて加盟した。本ファンドの共同 GP である SIIF は、Strategic Partner として加盟し、国際原則策定プロセスへの参画及び日本における IMP の普及促進の役割を担う。

また、2019 年度に政府が実施する「社会性認証制度に係る実証事業」に投資先 2 社が採択され、共同 GP および GP アドバイザーの計 3 社が、有識者や事務局として参画した。外部の専門家と共に、社会的インパクト評価モデルを精緻化し、データの測定・評価を進めている。

・「ソーシャル IPO（仮称）」のモデル作り：

投資先の主幹事証券会社と協業し、上場の際に対象会社の社会的インパクトに関する非財務情報を開示する方法等の検討を進めている。

・情報発信：

**メディア掲載：**2019 年度に本ファンドが取り上げられたメディア記事は 22 件（本ファンド調べ）であり、代表的な記事は以下の通り。

掲載日	メディア	記事名
2019/6/28	日本経済新聞朝刊	育児と介護 投資で支援
2019/7/1	日経企業活動情報	新生インパクト投資、SIIF、みずほ銀行は「日本インパクト投資2号ファンド」を設立
2019/7/25	フォーブスジャパン	女性の投資家タッグが生んだママ・パパ目線のエコシステム
2019/9/27	日本経済新聞電子版	ユニファ、「スマート保育園」実現へ 35 億円を調達
2019/11/15	CNET Japan	中高生プログラミング教育のライフイズテックが 15 億円を調達ーインパクト投資家と連携へ
2019/11/25	日本経済新聞電子版	ライフイズテック、次世代人材の育成へ 15 億円調達
2019/11/29	日経 MJ（流通新聞）	ライフイズテック、プログラミング、教員向け充実。
2019/12/2	日本経済新聞朝刊	時代のニーズ商機に、12社の企業価値、計1600億円（NEXTユニコーン解剖）
2019/12/12	日本経済新聞電子版	ユニファ、IT活用で「スマート保育施設」実現へ

**イベントの主催：**2019 年度、共同 GP である新生銀行グループと SIIF 及び GP アドバイザーであるみずほ銀行は、インパクト投資に関するイベントを 3 回主催し、本ファンドについても紹介した。

- 2019 年 6 月 7 日 SIIF 主催「社会的インパクト時代の資本市場のあり方」セミナー
- 2019 年 9 月 6 日 GSG 国内諮問委員会、SIIF 主催「インパクト投資フォーラム」
- 2019 年 11 月 30 日 日本財団主催「ソーシャルイノベーションフォーラム」における SIIF による特別企画「ファイナンス×イノベーション」セッション

**登壇：**共同 GP である新生銀行グループと SIIF 及び GP アドバイザーであるみずほ銀行の担当者は、外部の主催者より招聘を受け、17 回登壇した。

登壇日	イベント
2019/6/7	日本における社会的インパクト投資現状レポートとソーシャルエクイティファイナンス分科会提言書発表会
2019/7/2	Social Impact Day 2019
2019/7/4	Japan Institutional Forum
2019/7/23	神奈川県 SDG s 社会的インパクト評価実証事業「人材育成」フォーラム
2019/9/6	インパクト投資フォーラム 2019
2019/9/14	ファンドレイジング・日本 2019
2019/9/26	資金提供者の社会的インパクト・マネジメント・セミナー
2019/9/26	ユニファ（株）記者会見
2019/9/26	JAPAN INSIGHT TOUR (PWN)
2019/10/11	China Social Enterprise and Investment Forum 2019
2019/10/25	早稲田大学・EY Japan 提携講座「ウーマン・キャリアクリエイト講座」
2019/11/3	多摩大学大学院 MBA 講義
2019/11/30	ソーシャルイノベーションフォーラム 2019
2019/12/17	神奈川県 SDG s 社会的インパクト・マネジメント実践研修 講師
2020/2/25	「SDG s 実装セミナー」
2020/3/24 (予定)	「SDG s インパクト・マネジメント x ファイナンス」の事例と実践

- ・ **受賞等：** 新生企業投資が「東京都金融賞 2019-ESG 投資部門」を受賞



## 8. 投資先の声

投資先であるライフイズテック株式会社の石川孔明 CFO とユニファ株式会社の土岐泰之社長から、社会的インパクト評価に取り組んだ感想を頂いた。

### ライフイズテック株式会社 石川孔明 CFO より

ライフイズテックは、中学生・高校生ひとり一人の可能性を伸ばすことを目的とし、様々な事業に取り組んでいます。私たちがより多くの中高生に、より深くサービスを届けていくためには、その役割を評価し、資金を提供するインパクト投資家の存在が欠かせません。

今回の調達は、「インパクト投資」をテーマに、日本インパクト投資2号「はたらくファンド」様にリードを担っていただき、約20億円を調達しました。

調達時から現在まで、他のインパクト投資家や提携先の教育機関、企業を多数ご紹介いただきました。日本のインパクト投資マーケットを切り拓いてきた担当の皆様による起業家精神にあふれ、かつインパクト志向のサポートは、事業推進のうえでとても助かっています。

また、今回の社会的インパクト評価を含むデュー・デリジェンスでは、第三者視点の評価とディスカッションを通して、あらためて社会的インパクト・マネジメントの体制が強化されました。インパクト測定を「コスト」ではなく、「研究開発」と位置づけており、今後も連携しながら知見を深めていきたいと思っています。

ESG やSDGsの重要性が高まるなか、社会的インパクトを創出する企業に人や資金が集まる流れは、今後一層加速していくでしょう。日本におけるインパクト投資のパイオニアである皆様と、インパクト投資のエコシステムの活性化や、社会的インパクト・マネジメント手法の研究開発に取り組めることを楽しみにしています。

### ユニファ株式会社 土岐泰之社長より

投資家を選ぶ際には、経済的リターンだけでなく、社会的意義・インパクト、両方とも高い次元で実現していくといった当社の志に共感いただけることを非常に大事にしています。

インパクト投資のはたらくファンドならば、ともにインパクトの可視化とモニタリングを実施し、それらを企業活動の一環として繰り込んでいくことで、大きな付加価値を実現していただけると確信しています。

社会的インパクト評価はさまざまな場面で活用されます。採用する場合でも、全社メンバーが集まる総会の場でも、私たちの挑戦がどのようなインパクトを創出しているかを具体的に説明する上で、社会的インパクト評価は非常に大きな力を発揮しています。そして、共感するメンバーが集まり、大きな力となることで、社会課題を解決する新しいソリューションの提供につながっていくと信じています。

## 9. 有識者の声

本ファンドの取り組みについて、The Global Steering Group for Impact Investment (GSG)会長 ロナルド・コーエン卿より、以下のコメントを受領した。

“I welcome the first impact report of this pioneering fund which leads the development of authentic impact measurement in Japan. It beats a path for many others to tread in the future, bringing powerful resources and innovation to tackling great social issues, such as those affecting an aging population. It shows the way forward because we cannot sufficiently help those whom society leaves behind through philanthropy and government alone, we need to bring private sector investment to drive real change.” – Sir Ronald Cohen”

### (抄訳)

「日本における本質的な社会的インパクト評価の発展を主導する先駆者である本ファンドによる、初めてのインパクトレポートの刊行を歓迎します。本ファンドは、高齢化社会が直面する課題に代表される重大な社会課題に、強力なリソースとイノベーションで立ち向かっています。その取り組みは、後に続く多くの者がたどる道となるでしょう。なぜなら、社会に取り残された人々を救うには、寄付や公助だけでは充分ではないからです。真の社会変革を実現するには、民間による投資の導入が必要なのです」

### ロナルド・コーエン卿 略歴：

The Global Steering Group for Impact Investment (GSG)会長、ビッグソサエティ・キャピタル (英国) 創設者、ポートランド・トラスト (2003～)、ブリッジズ・ベンチャーズ (2002～2012) 創設者・会長、英国ソーシャルファイナンス (2007～2011)、米国ソーシャルファイナンス (2010～)、イスラエルソーシャルファイナンス(2013～)の創設者・理事長。英国ベンチャー・キャピタル協会の創設者・元会長、欧州ベンチャー・キャピタル協会の創業者。EASDAQ (欧州店頭株式市場) 創業者で元副会長、欧州 NASDAQ の全代表も務める。

オックスフォード大学及びハーバード・ビジネス・スクール卒業後、26歳で後のエイパックス・パートナーズ (Apax Partners) の前身となる企業を創業。33年後に会長を退いた時点でエイパックスは8カ国に300人のスタッフを抱え400億ドル以上の投資規模と質の高い投資実績を誇るヨーロッパ最大のプライベート・エクイティに成長していた。英国の社会的投資タスクフォース、休眠資産委員会の会長を務めた他、オックスフォード大学の投資委員会、ハーバード大学の資産管理組織のメンバーである。エジプトに生まれ、妻と2人の子どもと共にロンドンに在住。

以上